

情報 FUKUOKA 第94号

トライ

JRTU 発行者
九州旅客鉄道労働組合
福岡地方本部
発行責任者 岩永 康志
編集責任者 森永 克章
北九州市小倉北区室町3-137-1
NTT (093) 583-3385
JR (091) 4307~4308

=福岡地方本部 第22回定期大会=

職場に組合が見え、存在する活動を実践しよう

新体制のもと新たな決意で

福岡地方本部は8月3日、福岡市で「第22回定期大会」を開き、安全の確立をはじめ、組織の強化・拡大、将来のJR九州を見据えた中長期的な政策課題実現にむけた取り組みなど、新年度の運動方針を満場一致で決定しました。役員改選では、岩永康志委員長をはじめとする新執行部を選出。福岡地方本部としては初めてとなる、女性執行委員が選出されるなど、結成20周年の節目に相応しい大会となりました。



大会には、執行部、代議員、傍聴者、来賓を含め約140名が出席、議長団に善武志代議員(博多車掌区分会)と、鶴輪 綾代議員(小倉運転区分会)を選出しました。執行部を代表して岩永委員長は、冒頭「昨年の九州北部豪雨による災害から約1年、豊肥線の運行が再開されます。改めて関係者の努力と技術力に敬意を表す」と、感謝の意を表すとともに、安全の確立にむけた取り組み、政策課題の強化・拡大の取り組みの3点について所信を述べ、多くの課題に対し、日々の活動を通じて、一緒に解決、前進していこうと呼びかけました。

大会代議員、傍聴者のみなさん、大変お疲れさまです。昨年の九州北部豪雨の災害から約1年、明日8月4日、豊肥線の運行が再開されます。あの惨状からよく復旧することができたものだ、改めて関係者の努力と技術力に敬意を表したいと思います。

さて、JR九州労組は新たなスタートから20年の節目の年を迎えています。福岡地方本部ではこの間、議論を重ねてきました組織機構を見直しについて、円滑に実現していくための、規約・諸規則の改正について審議して頂く必要があります。そのような直近の課題も含め、3点ほど提起させていただきます。第一点は、安全の確立

にむけた課題です。先日、JR九州発足以来、最大の在来線運行管理システム障害が発生しました。地本としても、二度と発生させてはならないとの観点と、グループ会社との連携や、当日の勤務の問題等について明らかにさせていき、日々の組合員の努力によって、安定運行が成り立っているというところを会社に再認識させていくため、要求書を提出したところ、今年度も、安全の確立が最重要課題と位置付け、取り組みを強化していきます。今年10月には、JR連合の安全シンポジウムが、博多の地で開催されま



日々の活動を通じて、解決・前進を
岩永執行委員長あいさつ(要旨)

は改選議席を大きく下回る結果となりました。ねじれ国会は解消され、政権は安定したものとなりました。この20年間、賃金水準は下がり続け、今や5人に2人が非正規雇用となるなど、将来の不安は益々募るばかりです。また、私たち

私たちの政策を理解し、行動してくれる候補者に対し、連合傘下の仲間の相互理解のもと取り組んできました。今後も私たちの基本的スタンスに大きな変更があるものではなく、一緒に活動してくれる賛同者が増やしていくことが大切

地方選にむけた体制を強化していきたくと考えます。二点目は、組織の強化についてです。この間、JR九州労組が果たしてきた役割は、経営基盤が脆弱な会社の抱える政治的課題の解決など、不安要素を払拭し、たうえで、その実現にむけて労働条件を段階的に整備してきたことにあります。組織力も社会的に評価されるまでに伸展してきま

不安を起させない」との観点から忘れてはなりません。組織構成は、女性も飛躍的に増加し、若い人を中心とした組織状況へと変わってきました。次代を担う役員・活動家の育成は急務であり、分会の活性化を

する立場で、活発な発言がなされ、執行部からの答弁後、すべての議案が満場一致で採択されました。

また、役員改選では、岩永康志委員長をはじめとする新執行部を選出。なかでも、福岡地方本部では初めてとなる女性執行委員が誕生したほか、若い役員が多く選出されるなど、新生JR九州労組が誕生してから、20年となる記念すべき節目の年に相応しい大会となり、最後に岩永委員長の力こもった団結ガンパローで締めくくりました。



結成20周年

新団長に石松 和幸氏(田川市議) =地本議員団会議が総会=

福岡地本議員団会議(馬場一榮団長)は、8月2日、福岡市で第20回定期総会を開き、2012年度の活動を総括するとともに、2013年度の活動方針を決定しました。役員改選では、これまで地本議員団を牽引してきた馬場一榮氏が退任、石松和幸 田川市議を新団長とする新役員体制を選出、JR九州と地方行政のパイプ役として活動を強化していきたくを確認しました。



2013年度 福岡地本議員団			
役職	氏名	年齢	所属
団長	石松 和幸	66	田川市議会
副団長	原 康彦	58	佐賀県議会
副団長	松尾 哲也	53	大牟田市議会
幹事長	田中文太郎	40	福岡市議会
幹事	中村 内広	71	川崎町議会
会計監査	馬場 一榮	56	前北九州市議
顧問	松永 成行	77	前福岡県議会
顧問	手嶋 秀昭	71	前川崎町長
本部団長	村山 弘行	67	大宰府市議会
事務局長	竹下 文之	54	政治・共闘部長

13名の代議員が活発な発言

嘱託社員の待遇改善を

定村 博之(小倉駅)



定村代議員

60歳定年退職後の本体再雇用等の全体化が実現され増収等に対して、ほう賞金が支払われていない問題が発生したが、地本、本部に迅速に対応していただいた。この場を借りてお礼を申し上げる。

60歳定年退職後に再雇用を希望する社員は嘱託社員であり、パートナースタッフと同様の雇用形態である。しかし、増収をはじめ、お中元・お歳暮の目標金額は、社員と同等の金額であることに疑問を感じるため、改善を強く求める。

女性乗務員が働きやすい職場環境を

緒方 優一(南福岡運転区)



緒方代議員

南福岡運転区では、門司港運転区廃止に伴い、女性の運転士が9名転入してくるなど、現在13名の女性組合員が在籍してい

る。分会では、女性が働きやすい職場環境をつくらせていくため、分会でも女性会議を開催し、意見集約を行った。そのなかで、一番不自由しているのが、トイレの問題だ。

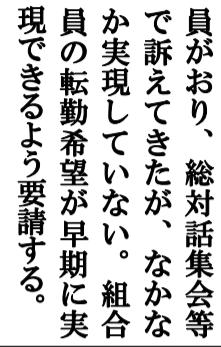
博多以南の線区には、女性乗務員用のトイレが設置されておらず、お客さまと同じトイレを使用せざるを得ないなど、不便を強いられている。南福岡運転区に配属が決まった時点で設置しておくべきではないのか。女性乗務員用のトイレの設置を最優先課題として取り組んでいただきたい。

地本女性会議の継続開催を要望するとともに、分会としても定期的な取り組みとして継続していきたい。

転勤を希望している組合員がおり、総対話集会等で訴えてきたが、なかなか実現していない。組合員の転勤希望が早期に実現できるように要請する。

ワーク・ライフ・バランスを実感できる環境づくりを

永井 佑佳(新幹線乗務所)



永井代議員

博多新幹線乗務所分会青年・女性委員会では、結成以降、ペットボトルのキャップ回収のポラ

ンティア活動を継続して行い7月現在で、2万2000個を回収することができた。また、地本が取り組んでいるそうめんの物販活動も、青年・女性委員会が主体となって取り組み、昨年に続き地本管内でも多い個数を集約することができた。課題であった常任委員会も定例開催ができるまでになり

学習会や女性会議を企画しながら、働きやすい職場環境づくりや仕事の課題点、悩みなど共有し、取り組みを通じて少しずつではあるが、役員のレベルアップが図られている。これらの取り組みが評価され、2年連続で最優秀分会表彰をいただくことができた。地本のご指導・ご支援に感謝申し上げます。

JR九州が発足して25年が経過したが、女性の働く環境も大きく変化している。女性が活躍できる場が多くなってきているのは嬉しいが、結婚や出産、育児など、今後、仕事と家庭の両立ができる不安に思っている女性組合員は多い。会社は株式上場を視野に入れているが、女性が長く働いて活躍できる環境や、ワーク・ライフ・バランスを

実感できる環境づくりが必要と考える。女性が働きやすい環境づくりや、ワーク・ライフ・バランスに実現にむけ、組合としてどう取り組んでいくのか見解を求める。

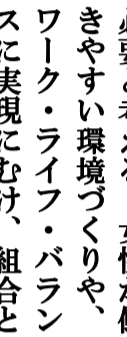
南福岡駅連合分会は、厳しい財政運営を強いられている。組合の方針である、分会の活性化に努めていきたいが、今の財政状況では、執行委員会も開けないのが現状だ。執行委員会にかかる費用等を地本で負担できないか検討していただきたい。

55歳以上の社員は、お中元・お歳暮の目標額も賃金に見合った額にすべきではないか。また、マイルの増収に関して、賃金は一向に上がらないなか、目標額が厳しすぎるため見直しを求める。

連合分会の括りについて南福岡駅連合は、南福岡駅以南は都府楼南駅までと認識していたが、いつ原田駅まで拡大されたのか。設置の経緯を含め、見解を求める。

希望を見出せる職場を

尾籠 俊也(長者原駅)



尾籠代議員

平成19年に実施された新賃金制度は、見直しの

分会財政の補てんを

峯元 広作(南福岡駅)



峯元代議員

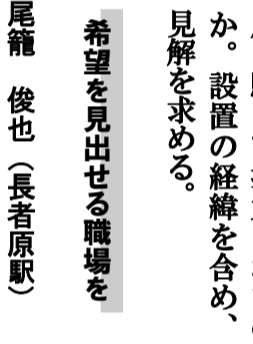
必要があると組合から当時説明があった。次世代を担う若手社員のモチベーションの向上、子育て世代の支援を行っていく観点からも、20代・30代の社員の基本給引き上げを求める。

駅には新入社員が配属されるが、一部を除いて1年後には車掌の資格試験を受験し、転勤していく状態が10年以上続いている。駅ではこのような状況から、若手社員への技術継承がまったく進んでいないのが現状だ。駅で働く社員全員が、将来の希望を見出せるような働きがいのある仕組みづくりを求める。

効率化施策等に対して、組合員は、すべて組合が了承しているような印象を持っている。もつと組合員が納得できるように対応と説明を求める。

適正な要員配置と乗務線区の分散化を

成清 智宏(博多車掌区)



成清代議員

博多車掌区では、多くの観光列車や臨時列車を受け持つ関係で、それに従事する指導担当や勤務担当の業務量が膨大となり長時間の時間外労働や休日出勤が常態化している状況だ。また、要員が毎年増え、庁舎内が手狭にな

なってきたりするなど、職場環境に影響が出てきている。きめ細やかな指導・教育体制の構築や、他の車掌職場の活性化、受け持つ観光列車体系の見直しを含め、指導担当者の要員増など、適正な要員の配置を求める。

運転取扱いに従事するクルーストレインのクルーに対し、博多車掌区との兼務発令がなされた。輸送管理システムの未設置やクルーの教育を担当する要員がいないためと聞いているが、先述した通り、博多車掌区の業務量は膨大であり、教育を行う余裕はまったくない。また、クルーストレインが走行する線区には、博多車掌区が乗務しない線区も多く含まれており、教育できないのが現状だ。世界中から注目を浴びているクルーストレインだ。失敗は許されない。クルーの安全教育はクルーストレイン本部で行うべきだ。

次世代を担う役員・活動家の育成のため、青年・女性委員会の活性化は必要であり、博多車掌区分会でも、活動が停滞していた青年・女性委員会を再結成した。今回の組織機構見直しにより、支部が結成されるが、支部を有効に活用しながら、全分会で青年・女性委員会が結成されるよう指導をお願いする。

女性が働きやすい制度の実現を

坂本 賢作(門司車掌区)



坂本代議員

7月の予備乗務員において、3徹、1休、3徹の勤務が多く見受けられた。安全確保の観点から問題がある。これまでも問題提起してきたが、一向に改善される気配がない。改めて強く訴えておく。

門司車掌区は、育児をしながら働く女性のモデル職場であり、産休後の女性が働きやすいモデル行路として、日勤の乗務行路が新たに設定されたが、女性ではなく、男性乗務員が乗務しているのが実態であり、要員が逼迫している原因にもなっている。また、現行の制度では、様々な制約があり、育児をしながら乗務するのは難しいのが現状だ。もつと女性が働きやすい職場環境をつくるために、JR他社の事例等を学びながら制度を導入していくことが必要と考える。

昨年より新幹線乗務の受験資格が変更となり、運転士を経験していないと受験できなくなった。門司車掌区にも新幹線の乗務を目標としている者が多くいるが、運賃の関係などで、運転士になれない者もいる。希望を持った

社員の夢の道を閉ざすことのないよう、制度の見直しを強く求める。

業務の効率性向上のため、車掌の盛夏衣着用時のネクタイ省略を求める。

作業環境の改善を

中田 幸二(小倉総合車両セ)

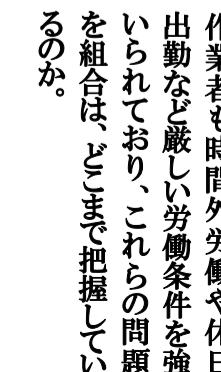


中田代議員

小倉総合車両センターでは、現在クルーストレインの工事が進められているが、工期が大幅に遅れている。また、ディーゼル機関車のエンジンや客車の騒音問題、排煙装置が設けられていない建屋での排気ガス問題など、数多く発生している。さらに工期を短縮するために、試験を省略するなど安全面にも問題がある。作業時間も時間外労働や休日出勤など厳しい労働条件を強いられており、これらの問題を組合は、どこまで把握しているのか。

男女平等参画の推進を

西村 毅(小倉運転区)



西村代議員

労働組合の活動・運営には理解を示すが、組合費は我々の賃金で賄われている。我々の労働条件の向上



私にも一言

我々の賃金で賄われている。我々の労働条件の向上(3面へ)